



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年7月23日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



「声」上げる 赤川次郎さんの真意

23日(日)＝1、3面



映画化された「セーラー服と機関銃」や「三毛猫ホームズ」シリーズなどで知られるベストセラー作家の赤川次郎さん＝写真＝は、政治や社会問題に対して声を上げています。文学界には、政治や事件などに意見を表明するのを敬遠しがちな風潮があり、赤川さんの言動は注目されています。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、開催が中止かで揺れた東京オリンピック・パラリンピックを巡っては「五輪中止」と朝日新聞の読者欄に実名で投稿して大きな話題になりました。声を上げ続ける真意とは？

また、赤川さんは、若い頃の作品では大勢の登場人物を殺したけれども、

年を取るにつれて殺される人数は減っていると明かしました。その理由に、作家として大切にしているメッセージを、読者に伝えたいとの思いが込められています。

ジャーナリストの池上彰さんとの対談では、報道機関に対して厳しい指摘もありました。人気作家の素顔に迫ります。

論点

「8月ジャーナリズム」を問う

26日(水)＝オピニオン面



広島原爆ドーム

毎年、戦争に関する報道は広島と長崎の原爆の日の少し前から増え始め、8月を過ぎると極端に減ります。こうした報道はメディアへの批判や皮肉を込めて「8月ジャーナリズム」と呼ばれます。

一方、600万人のユダヤ人を虐殺し、周辺国を侵略したナチスを生んだドイツでは、過去の戦争はどのように報道されているのでしょうか。

8月ジャーナリズムを考えます。



培養鶏肉を使ったパスタ
シンガポールで



「培養肉」に未来はあるか

29日(土)＝1、3面

環境問題への関心が高まる中、動物から採取した細胞を培養した「試験管育ちの肉（培養肉）」に注目が集まっています。記者が世界で初めて培養鶏肉の販売が認められたシンガポールで取材し、食肉の未来を探りました。

特集ワイド

生物学者・小林さんに聞く 人間にとって老いとは

24日(月)＝夕刊2面

人間にとって、老いとは何でしょうか。生物学が専門で東京大教授の小林武彦さん＝写真＝は、そもそも野生の動物は老いないと言います。「人以外の野生動物って、みんなピンピンコロリで死

んでしまうんですよ」。それには生き物の進化の歴史が関わっているそうです。では、人間は？「シニアがいる共同体の方が進化するのに好ましかったんです」と語っています。



編集後記

竹橋の窓辺から

女性誌の発行部数1位の「ハルメク」と、毎日新聞社が運営する暮らしとお金の相談窓口「生活の窓口」の共催で29日、セミナー「失敗しない老人ホームの選び方」が開催されます。雑誌の休刊が相次ぐ中でも、中高年向けのハルメクは部数増が右肩上がり（週刊文春より多い！）。それが物語るように、人生100年時代でシニア市場の成長を見据えたコラボです。今後の企画にもぜひご注目ください。

(小林知史)

